



2024年11月26日  
第84号

# JR東労組 Yokohama

JR東労組横浜地本

発行人 梶田 優一  
編集 情宣 担当  
ホームページ



<http://www.jreu-yokohama1.jp/>

横地申  
第41号

## 東海道線横浜～川崎駅間生見尾踏切での人身事故において発生した関係者が 作業中に隣接線の抑止が解除された事象の原因究明を行い、運行優先ではなく 11/21安全で安心して業務に従事できる環境を求める申し入れ 1期日目その①

| 組合   | 会社  |
|--|---|
| <p>事象発生は4月26日。横浜地本として申し入れは6月28日で交渉スケジュールが最初に示されたのは10月31日であり、申し入れから約4ヶ月経過している。安全というのは労使共通の課題と認識しており対策を講じた上で交渉に入る姿勢は、労使でこの問題を解決する姿勢ではないと危惧している。今回の事象について、労使共通の問題であるという認識でよいのか。</p> | <p>会社として原因究明し対策を行ってきた。貴側から申し入れをいただいて、対策を会社として行っていく中で、会社としての見解が固まった上で、10月31日に交渉の予定を計画した。労使関係を蔑ろにするわけなく、安全に対しては、お互いが一致していると思いますので、この場を使って真摯に議論できればと考えている。</p> |

1. 2024年4月26日、東海道線横浜～川崎駅間生見尾踏切での人身事故において、対向運転士や車両検査係など関係者が隣接線路(京浜東北線南行)内で作業中に隣接線の抑止解除を行うという事象が発生したが、会社の問題意識と原因および対策を明らかにすること。  
【会社回答】当社は安全を経営のトッププライオリティと位置づけ、安全性の向上に継続して取り組んでいるところであり、今回発生した事象について、隣接線を抑止解除されることが一部の作業者に伝わっておらず、抑止解除後の線路内に作業者が立ち入ったものであるが、多面的に原因究明を行い、再発防止に努めていく考えである。

| 組合   | 会社  |
|--|---|
| <p>安全ポータルタイトルの「隣接線の抑止解除後に線路内に立ち入った事象」であるが、「安全確認とれていない状態で抑止を解除した事象」が正当ではないか。</p>        | <p>隣接線に誰もいないことを確認した。警察・消防・社員の責任者に運転再開を伝え、運転再開させた。しかし隣接線の抑止解除が一部の作業者に伝わっていない状況で、結果として一部の作業者が立ち入る事となった。</p> |
| <p>現地責任者は、作業者は安全な箇所に行ったという認識か。</p>   | <p>現地責任者は、作業者が先頭部で列車の損傷の確認作業をしていることを把握できていなかった。情報はなかった。</p>   |
| <p>「抑止解除後に誤って作業者が入ってしまった」と見えてしまう。「抑止解除誤り」の方が他山の石として受け止めてもらったのではないか。</p>                | <p>立ち入った人が悪いという事ではなく、安全確認し抑止解除した後の情報伝達において現地責任者が把握できなかったことに問題意識がある。</p>                                   |
| <p>回答にある「隣接線を抑止解除されることが一部の作業者に伝わっておらず、抑止解除後の線路内に作業者が立ち入った」事象というタイトルにすれば、伝わるのではないか。</p> | <p>抑止解除する重要さは認識している。線路内に入ることが問題。現地責任者のもとに作業者が配下として行動できていたかが課題であった。</p>                                    |
| <p>会社が取ってきた対策を示していただきたい。</p>   | <p>「人身事故等の対応における二次災害の防止について」の通達を发出し現地責任者、作業責任者、作業者が遵守すべき事項を定めた。</p>                                       |
| <p>現場にいた対向列車の運転士に対して事象後1週間聞き取りがされないのはなぜか。 ※聞き取りは運転士側から求めた</p>                          | <p>確認しなければならない時にその都度話を伺っていたということだ。</p>  |
| <p>支社の聞き取りは6月になってからだった。なぜもっと早く聞き取りをしなかったのか。</p>  | <p>現地に行った方に繰り返し話を聞いたりして結果として6月になった。</p>   |
| <p>私たち労働組合員や、社員の声反映されないというわけではないという事で良いか。</p>  | <p>これまでもこれからも社員の声と言うのは聞いているので、変わらない。</p>  |
| <p>乗務員は正しく速やかな報告をしている。なぜ速やかに聞き取りがされなかったのか。自分は死んでいたかもしれない。</p>                          | <p>しっかりと受け止めていく。</p>  |
| <p>現場管理者に聞くと「情報が入ってこない」「上の指示がないとわからない」「他系統のことは聞けない」と言われた。なぜ他系統と共有しないのか。</p>            | <p>関係者が多い。事実確認しなくてはならない。慎重に確認し時間を要した。</p>   |
| <p>千葉支社や水戸支社では具体的な内容が早期に展開されている。なぜ横浜支社では掲出されないのか。社員が死にそうになっている。なぜ他山の石にならないのか。</p>      | <p>箇所として一番効果的なものを掲出してもらう。訓練・CSで取り入れていく。一律にはならない。各箇所でも責任をもち教育指導している。</p>                                   |

**社員の命が奪われたかもしれない事象だ！** **その②**  
**他山の石として職場から安全議論をつくり出そう！** **に続く**